平成 27・28 年度 ACTR

大宮売神社所蔵考古資料の整理と活用

向井　佑介

歴史学科では、京丹後市立丹後古代の里資料館からの提案をうけ、2015 年度より地域貢献型特別研究（ACTR）「京丹後市域の考古資料を中心とした文化遺産の整理と活用」の一環として、大宮町周枳に所在する大宮売神社所蔵資料の整理と公開を進めてきた。2014 年に市制 10 周年記念事業の一部として大宮売神社の展示をリニューアルしたのをはじめとし、2015 年からは ACTR の事業として資料の記録・整理・研究を本格的に開始し、今年度は資料の整理と研究を継続するとともに、研究成果を市民に還元するイベントや報告会を実施した。

資料の調査　京都府立大学における数次の打ちあわせと準備作業ののち、7 月 24 日に大宮売神社をおとずれ、ミニチュア土器をはじめとする境内遺跡出土資料の実測をおこなった。今年度の調査で、一昨年から継続してきた神社所蔵の主要な資料の調査をひとまず終えることができた。その成果については、京都国立博物館に寄託されている資料の整理成果などとあわせて、来年度以降に報告する予定である。

小学生向けイベントの実施　8 月 1 日に丹後古代の里資料館において小学生対象の体験学習イベント「ミニチュア土器をつくってみよう」を実施した。イベントには、京丹後市内の各所より、小学校低学年から高学年までの児童 11 名（京丹後市内に帰省先をもつ児童を含む）が参加した。おもな教材とした大宮売神社遺跡出土のミニチュア土器（小型の手づくね土器）は古墳時代の祭祀遺物で、最初に学生らが古墳やミニチュア土器について簡単に説明したあと、実物の観察をふまえて、土器の製作体験をおこなった（詳細は本書の川崎報告参照）。

成果報告会の開催　10 月 19 日に京都府立大学と京丹後市教育委員会文化財保護課との共催事業として、京丹後市大宮町の周枳地区公民館で文化財セミナーを実施し、大宮町周枳を中心として 30 数名の来聴者をえた。歴史学科の教員 2 名が登壇し、それぞれ「大宮売神社の考古資料―整理と活用の成果―」（向井佑介）と「大宮売神社とその周辺の遺跡―地域の文化遺産のもつ意義―」（菱田哲郎）をテーマとする講演をおこなった（写真）。

周枳地区公民館での成果報告会（10 月 19 日）

また、歴史学科 ACTR「「丹後の海」の歴史・文化に関する総合的研究」との合同成果報告会を宮津市みやづ歴史の館で 2 月 18 日に開催し、向井が「丹後の海と古代祭祀」と題する報告をおこなった。

地域のなかで大切に伝えられてきた文化遺産のすぐれた価値を将来に継承していくため、今後もこうした研究成果の地域還元を継続的に実施していく予定である。